

2020年 賀詞交歓会

開会挨拶

今井 康夫 会長

あけましておめでとうございます。本日は、大変ご多用のところ、たくさんの方々にご出席賜り、誠にありがとうございます。また、旧年中はひとかたならぬご厚誼をいただきまして誠にありがとうございました。本年もまた一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



本日は、経済産業省の高田製造産業局長、厚生労働省の吉田医政局長、高圧ガス保安協会の近藤会長、日本医療ガス学会の武田理事長をはじめ、関係省庁、関係団体の幹部の方々、またプレスの方々にも多数お越しいただいています。本当にありがとうございます。

産業ガスは、鉄鋼、化学、エレクトロニクス、食品、建設等々と多くの産業で幅広く利用されており、その供給がストップすれば、日本のサプライチェーンは崩壊してしまいます。その意味で、「産業ガスを供給する」という我々の事業は、「産業に不可欠なインフラ」と言えると思います。

一方、医療ガスは、患者の生命維持と治療に欠くことができない文字通りライフラインです。その意味で、「医療ガスを供給する」という我々の事業は、「医療に不可欠なインフラ」と言えると思います。

このような我々の事業の役割と使命感を合わせて表現するため、キャッチコピーを広報委員会で作りました。「モノづくりを支え 命を守る、インフラがある。」というものです。今日もお持ち帰りいただくと思っておりますが、JIMGAのパンフレットで広報を始めています。皆様のご支援をお願い申し上げます。

さて、国内景気は、個人消費が緩やかに回復しつつあるものの、米中関係の悪化などに伴う世界経済の低迷や、多発する自然災害による生産活動への影響を受けて停滞感が強まっています。これに加え、米イラン情勢の緊迫により、先行きが一気に不透明になりました。年末に示されました景気対策や、今後の臨機応変な経済対策に期待するところです。

そのような中でも、炭酸ガスとヘリウムは依然として厳しい需給環境が続いています。液化炭酸ガスの需要の半分は、溶接用、次に飲料用、冷却用と幅広く使われています。供給サイドでは、昨年大分県で新プラントが稼働しましたが、旺盛な需要のために、現在でも大きな炭酸ガス工場が1つでも止まると一気に供給不足になってしまう状況にあります。2021年に、新潟県と山口県で新プラントが稼働する予定と聞いていますが、炭酸ガスは、農業用などにも需要が拡大しつつあり、炭酸ガス供給者としては、原料となる粗炭酸ガス源の確保と効率の良い生産プラントの開発が必要であると考えます。



ヘリウムの供給不足は一層厳しいものがあります。日本国内に流通しているヘリウムは全量が輸入品ですが、世界的な需要拡大、特に中国での需要が急激に増加しています。一方で、世界最大の供給源である米国土地管理局が、2020年以降、民間への供給を停止することが大きく影響しております。

カタールやロシアで新たな生産が始まるまで、当面は厳しい状況が続きます。ヘリウム供給者としては、ヘリウムの確保、節約、再利用、代替技術による対応などが必要とされるでしょう。

JIMGAにおいて緊急性を要する対処すべき重要テーマは、「災害対策」です。先に申し上げたように、我々の事業は経済社会のインフラです。たとえ災害時であっても必要なところにガスを届けるということが、我々の使命です。災害時における医療ガス・産業ガスの供給継続のため、平時より、関係省庁、地方自治体、警察、消防等と、会員事業者が供給継続できるよう支援する仕組みを作っていきたいと考えています。

こうした観点から、災害対策を進めておりましたが、事態はより深刻になりました。昨年、台風15号と19号による高波や河川の氾濫により、JIMGA会員3社の充填所等から高圧ガス容器が流出しました。重大事故には至っていませんが、再発防止のため、当局のご指導もいただき、全ての充填所等における容器の転倒防止対策と流出防止対策の現状を確認しつつ、また、ハザードマップにおけるその地域の浸水の想定等の情報収集を進めています。近く、JIMGAが発行している「充てん所の地震対策指針」を、地震や津波だけではなく、風水害も含めた「自然災害対策指針」に改訂し、会員に周知徹底するとともに、浸水リスクの高い充填所等については、十分な対策を講じていただくよう要請していきたいと思っています。こうしたことは、JIMGAだけでできるものではありませんので、高圧ガス保安協会殿や全溶連殿、関係団体と相談をしながら進めていきたいと考えています。

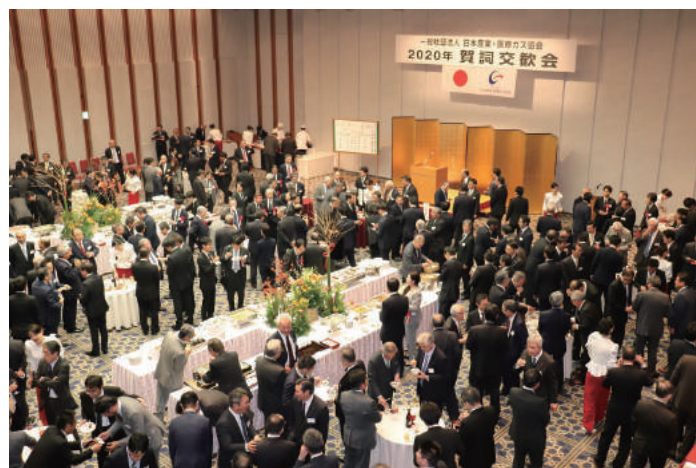
また、これも広い意味での災害対策活動の一つですが、放置容器の問題があります。毎年1,000本を超える放置容器が見つかっています。この中には、腐食が進み、破裂事故やガス漏洩事故の危険性がある所有者不明の容器もあります。これら放置容器の回収は、高圧ガス保安協会から委託を受けた地方高圧ガス容器管理委員会が行っていますが、JIMGAとしては、そもそも放置容器を発生させないようにするにはどうすればよいか、放置容器撲滅WGを組織して検討しているところです。

次に当業界全体に関わる課題である電力コストの問題についてお話しします。再生エネルギー固定価格買取制度(FIT)の賦課金による電力コストの上昇は、業界全体で減免措置適用前が186億円、減免後でも年間69億円にものぼり、大きな負担となっています。これに電力料金の上昇を加えると、2011年3月と比較した当業界の負担増は、年間224億円になります。電力多消費産業である我々が日本の産業を支えていくためには、低廉で安定した電力が必要です。引き続き、電力多消費11団体で協力し、政府に対してFITの抜本的見直し等を訴えていきます。

医療ガス分野では、医療現場で医療ガス事故を起こさないことが何よりも重要です。MGR(医療ガス情報担当者)制度は、JIMGA会員の医療ガス分野に従事する方々の知識や技能の向上を目的とした資格制度で、医療ガスをより安全に、より効果的に使用できるよう、医療機関に情報提供する役割を持った制度です。JIMGAでは、この MGR の認知度と公的地位の向上を図るため、これまでも鋭意取り組んできました。その一つとして、都道府県に営業所管理者の資格要件としてMGRを認めてもらいたいということがあります。しかしながら、会員限定の制度ではなかなか難しいというご指摘もあり、これまであまり進展をしていませんでした。現在、4月末の実施を目処に、JIMGA会員以外でも MGR を取得できるよう制度改正を行っています。その意味で、本年が新しいMGR制度のスタート元年となることを期待しています。

まだまだご報告すべき課題はありますが、本年も、「常に発信するJIMGA」、「皆様に頼りにされるJIMGA」、「存在感のあるJIMGA」でやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶

経済産業省 製造産業局長 高田 修三 様



あけましておめでとうございます。令和になり、初めての新年を迎えました。今年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。前回の東京オリンピックの時には、戦後日本の復興を世界に示すことができた良い年になりました。今年も同じように、素晴らしい年にできたらと考えています。

年明け早々、地政学的なイランあるいは米中の話題などにより、経営や事業をされている方々には、今年はどういう年になるだろうと緊張するような出だしとなった面もあるのではないかと思います。地政学的な緊張の高まりということだけでなく、経済的にも景気が良い方向に行ってくれるのか、それともまだやや内需の停滞感がある年になるのかなど、先を見るところについてもアナリストの間でも意見が分かれています。また途上国や、中国経済、アメリカ経済についての見方も、それぞれの分野によって違うという状況です。

この中で確実に言えることは、不確実性が高い時代を乗り切っていく年になるということです。変化に迅速に対応する適応能力、学説的にはダイナミック・ケイパビリティと言われるようですが、この能力というのは大事だと思います。その変化というのは今までの延長線上に予見できる変化ではない、大きな変化です。昨年の災害なども、おそらく過去にない災害が突然起きたということですが、決して昨年だけのことではなく、むしろいつでもそれに対応していくという心構えや備えが必要ということになってくると思います。

私どもはこれらを乗り越えていくツールとして、「デジタル化」が大事であると色々なところで申し上げています。モノづくりの現場もデジタル化して、色々なものがつながっています。ビッグデータを処理していくということもデジタル化です。ここにお集いの皆様にとっても、AI、ビッグデータ、お客様データなどを駆使して、今までの製造物あるいはサービスに、より付加価値をつけていくような転換点に差し掛かっています。私どもも、5Gを進める環境を整えるための税制や、さまざまなデータの取引にまつわる環境整備等、デジタル社会の進捗につながるよう努めていこうとしています。皆様の業界の変化対応力を高めていくことにつながればと考えています。

酸素、窒素をはじめとする産業ガスは、化学、鉄鋼、エレクトロニクス、食品など幅広い産業分野で使われ、我が国の産業のサプライチェーンを支える重要な産業です。今井会長からお話がありましたように、まさに「モノづくりを支え 命を守る、インフラ」というのが産業ガス・医療ガスだと思います。昨年の産業ガス業界を振り返りますと、シェアの大部分を占める酸素については、主要なユーザーである電炉やガラス産業の需要が減少し、窒素も化学産業から鮮度保持など用途範囲は広いですが、全体的な伸び悩み感があり、業界としては厳しい1年になったと聞いています。今後はこれから進んでいくであろう5Gの進展を踏まえて、半導体などに使用される電子材料ガスの需要の拡大などにも期待したいと思います。

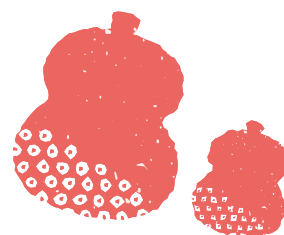
その中で、先程今井会長のお話にもありましたように、ヘリウムの需給が大きな課題になってきています。昨年12月に日本物理学会等から声明が発表されましたが、足元の中東情勢なども含めて、今後のヘリウムの安定供給は重要な課題です。これまで、調達先の確保、適切な在庫管理、事業者との契約調整により、安定的円滑な供給にご尽力いただけてきていますが、今後はとりわけ液化ヘリウムの不足がいわれる中で、リサイクルの推進なども進めていただければと考えています。

この年始の機会にお願いしたいことが3点あります。まず1つは、サプライチェーン全体の競争力強化を図る上での取引適正化です。例えば、政府は働き方改革を進めていますが、今年4月から中堅中小企業も含めた働き方改革の規制が入ってきます。大企業が、金曜日にサプライヤーに対して次の月曜日に納品を求めるといような、働き方改革のしわ寄せが起きたという事例もあるようです。サプライチェーン全体での取引適正化を進めていただきたいと思います。

2つ目は未来への投資です。12月に未来投資会議の報告書が出ていますが、2012年から2018年の6年間で、1部上場企業の内部留保が37%増加しています。他方、製造業やサービス業において、新製品や新サービスを投入した企業の割合は、統計によると先進国で日本が最も低いという状況です。今般、オープンイノベーション税制も創設されています。是非未来のための投資にご協力いただきたいと思います。その投資は、財だけではなく、人材に対しても同様です。そのベースは賃上げですが、人手不足が続く現状においては、就職氷河期世代の方々の活躍を増やす絶好のタイミングであり、これまでの職歴などにとらわれず、意欲を持った方々の積極的な中途採用にもご協力いただきたく思います。

3つ目は、今井会長のお話にもありましたように「災害対策」です。「モノづくりを支え 命を守る、インフラ」でありますから、災害時でも必要なところにガスが届くという供給の安定確保が大事です。地方自治体をはじめとする関係者との、日頃からの情報共有の強化をお願いしたいと思います。

今年は冒頭に申し上げたとおり、オリンピック・パラリンピックの年です。1964年の東京オリンピックを今振り返ると、あのオリンピックの年に新幹線が開通しました。同じように、この2020年を振り返った時に、あの時オリンピック・パラリンピックとこれが始まった、これを仕込んだと言えるような充実した年になっていくことを祈念するとともに、私どももそうなるように励んでいきたいと思えます。ここにお集いの皆様の益々のご発展とご健勝を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶

厚生労働省 医政局長 吉田 学 様

皆様あけましておめでとうございます。

本日は、2つの御礼と1つのお願いを申し上げます。
させていただきます。

まずは、災害時における協会各所の皆様のご協力、ご支援に対して改めて御礼を申し上げます。残念ながら、昨年も様々な災害がありました。とりわけ関東と千葉を中心として停電が起こった台風15号の際には、在宅酸素療法を受けておられる多くの患者さんの安否確認をいただきました。千葉を中心に近県も入れて何千という患者さんについて、協会各社の皆様のネットワークと利用者の方々との信頼関係、これに100%頼らせていただき、短時間で安否を確認することができました。本当に行政ではできない部分をご支援いただいたと思っております。災害はいつまた起こるかもしれませんので、今後ともご支援をお願いいたします。

2つ目は、地域医療の関係です。医師不足の問題、働き方改革の問題、地域の医療機関のあり方の問題など多くの課題を抱えています。時々ルールや技術が変わる中で、協会の皆様が現場スタッフの方々を、講習などの形で常にフォローし底上げをさせていただいている、医療の分野において大事な安全を基本部分で支えていただいている協会の取組みに対して、改めて御礼を申し上げます。

最後にお願いです。少子高齢化で地域社会のあり方が変わる中で、各社の皆様から、いかに優秀な、そしてフットワークを持った人材を確保するかに大変な困難を抱えておられるというお話を伺います。一方で、就職氷河期と言われる世代の方々に、希望したキャリア、希望した就職になかなか結びつかず、厳しい生活をされている方もおられます。政府全体としては、就職氷河期世代に対して、その能力と意欲を踏まえ、社会的に活躍いただける場を確保するという政策に取り組んでいます。これから国会で審議される来年度の補正予算や諸施策において、色々な支援策を取り込むと同時に、厚生労働省をはじめ内閣府などの国家公務員に就職氷河期の方々の能力に応じた中途採用を積極的に進めることにより、社会全体としてのこれらに向けて一歩踏み出そうとしています。各社の皆様にも、この全体の流れとその思いをご理解いただき、それぞれの立場から、それぞれの条件の中で、ご支援、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

本年一年が、今日お集まりの方々にとって良き一年となるように、そして皆様の良き一年を私どもが精一杯ご支援させていただくことができるように改めて申し上げ、挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶

高圧ガス保安協会 会長 近藤 賢二 様

皆様あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

昨年を振り返りますと、天皇陛下のご即位といった大きな事業があり、これが非常にうまくいき、上皇陛下もお元気であったと、やはり、このように幸せに包まれた中で新しい時代を迎えるのはいいなと改めて思っているところであります。

一方、昨年は多くの災害が発生しました。台風による強風や豪雨により大きな被害が生じ、残念ながら多くの犠牲者も出ました。今年に入ってから、米国とイランの問題やカルロス・ゴーン氏が突然レバノンに行ったことなど、たくさん驚くようなことが続いております。

しかしながら、私は、今年が必ずや良い年になると思っております。今年はオリンピック・パラリンピックの年であると同時に、庚子の年です。庚子というのは、甲乙丙丁でいうと甲、それから子というのはネズミのことです。庚の字は白と杵であり、白と杵で物事を始め、そしてネズミの年は子沢山で繁栄します。また、庚子の年には新しい芽が出て花が開き、繁栄に繋がるという非常に縁起の良い年であります。今年、2020年、そして、令和2年、この2つの葉が出て発展していくという年であります。ぜひ、高圧ガス保安協会の葉とJIMGAの葉を2つの葉にして、大きく繁栄をしていきたいと思っております。

今年もいろいろ厳しいこともあると思います。また、悲しいこともあると思います。ただ、今年、オリンピック・パラリンピックの年であるだけでなく、2020年という将来に向けての大きな一歩になる年だと、私は確信をしております。この2020年を良い年にしていこう、皆様とともに前進していくことをお誓い申し上げます。

最後に、本日で列席の皆様のご発展、皆様のご健勝を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



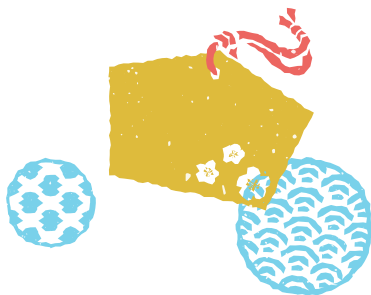
乾杯挨拶

永田 研二 副会長



2020年は、先ほどよりお話に出ておりますとおり、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。前回1964年の東京オリンピックの記憶が残っておられる方もかなり減ってきたのではないかと思います。当時私は幼稚園に行く前に、黄色いカバンを肩から下げてNHKのダイジェストを見た記憶があります。子供心にも、オリンピックを起爆剤に街がきれいになり、生活が豊かになるとともに経済が活発になっていくのを感じました。経済活動が拡大する中では、先ほど高田局長のお話にありましたように、新幹線等、色々な意味でのイノベーションがあったのだらうと思います。今年は、我々も含め日本が新たなイノベーション大国になるというような年にしていきたいと思っております。

皆様にとって、昨年はどうな年だったでしょうか。私としては4つ記憶に残っていることがあります。まず4月の働き方改革関連法案の受理・施行。令和元年となった5月の改元。10月の消費税率の改正。そして、9月・10月の台風15号・19号による甚大な災害の発生です。産業ガス・医療ガスは、やはり安定供給と保安・安全が第一です。昨年の災害では、今日お集りの皆様も安定・安全供給にご尽力され、お客様やマーケットから評価されたことと思います。ただ残念なことに、容器の流出が起こったことも事実です。先ほど今井会長より、JIMGAとしても災害対策WGを立ち上げるとのお話がありました。「モノづくりを支え 命を守る、インフラがある」。これは安全、安心、安定供給という前提があればこそで、私も一人の産業ガス業界人としてこの大切さを再認識し、取り組んでまいりたいと思っております。JIMGAにおいても、すべての会員に対し、自然災害対策に関するアンケート調査をさせていただいております。改めて各社の災害に対する対策を再確認いただき、そのレベルを上げていくことが、JIMGAとここにお集りの皆様の共通の課題であると思います。



皆様の会社および組織の益々のご繁栄、今日お集りの皆様のご多幸、ご健勝、そして、2020年という記念すべき年が素晴らしい年となりますよう祈念申し上げて、乾杯をしたいと思います。

中締め挨拶

鈴木 慶彦 副会長



災害が多いという話を色々な方がされています。確かに災害の規模は全く変わってきています。しかし、災害は未来永劫続くものですし、必ず起きるものです。そういう時にどうすればよいのかということです。災害がくる、大変だ、困ったな、という風に考えているとろくなことがない。やはり、災害はくるものだから、とにかく知恵を絞ってなんとか被害を小さくしようと、我々も色々な工夫をし、考えていくと、そこに色々なチャンスが生まれてくるのではないかと思います。

今年は夏にオリンピック・パラリンピックがあります。特に東京都や神奈川などの首都圏で大変だと思うのは、この期間中の交通が全く普通では考えられないような状態になるだろうと予想されていることです。これについてどういう準備をしていくのかですが、期間中にテロなどが起こらないよう、容器管理をきちんとしなければならない等、我々は色々な課題を抱えております。しかし、これを嫌々やっていると必ず抜けが出ます。こういうことをきちんとやって、我々の事業の付加価値を上げ、社会に認められる業界になっていかなければならない、こういう風に考えてやると、そこにチャンスが生まれてくるのではないかと思います。色々なリスクがある場合には、その裏に必ずチャンスがあると考えて、是非前向きに皆様と力を合わせていきたいと思っております。(三本締め)

